

茶 羅 仏 だ よ り

19号

森松縫殿助跡地に神明社

10月16日秋の祭礼において、本殿の基礎・外構修復工事が氏子や事業所からのたくさんの懇志により無事に成し遂げられた報告がありました。

金戸館最後の館主が森松縫殿助と云われ、藩政時代に記された『故墟考』には森松縫殿助



居址とある。井波・福野・福光には森松姓を名乗る家が数多くあり遠祖は金戸だと伝えている。福野町教育委員会教育次長（平成十六年九月現在）の森松稔氏も父祖以来森松家は城端町金戸の出身であり鎌倉時代まで遡る家柄と伝え聴くと語っている。森松氏によれば名前も鬱蒼とした森の中にあつたから森松と付いたと云う。そして金戸館に居住していたのではなくて、現在の神明社の地が屋敷であつたと言われ驚いた。

その森松家は「文明13年（1481）福光城主石黒光義に与し一向一揆と戦い、



山田川畔の田屋河原たやがわらで敗れ、のち帰農し本江（旧野尻村）・坪野（旧山野村）・示野出（庄川町）の3村に住み今日に至っている」とある。『庄川町示野村史』

神明社の創建

森松家が文明13年に金戸の地を離れて、その跡地に神明社が建つたとするならば創建530年ということになる。森松家の退転後に直ちに神明社が創建されたとは考えられず、その頃の山田市では住吉社が祀られていた。金戸の村立がなるのは前田利家が文禄3年（1594）の文書に記す村名「かねと」からとすれば417年前頃に創建が成つたと言える。

神社はモリが語源

宮のことを『風土記』『万葉集』には、「社」「杜」「神社」の漢字があてられているが共に「モリ」と呼んでいる例が多い。古代の人は、神は鬱蒼とした森のなかに宿るものとして感じていたからだ。「鎮守の森」といえば神社をさすが、金戸には示野（現西原）あたりから湧き出る清水を源とする「モリノク川」が流れていた。昔から「標野しめの」「示野」の地名は神の宿る神聖な場所に多くあり、神の鎮る川まもとして名付けられたとも考えられる。

鎌倉から室町末まで居していた森松家屋敷は示野と境を接する場所にあり、往古の金戸にとって神聖な「モリ」であつたのであろう。森松と名乗つたことや、一番に聖なる処に屋敷を構えていたことから、文禄期の村立て後に社やしろを遷座したのも頷けるものがある。

金戸の石碑・石仏

金戸には石碑や石仏が多く祀られている。四ツ辻や村境に建つ道しるべの石仏、供養のための石仏・石碑、山田市の商売護持の石仏、祠堂の石仏などがある。



上金戸橋のたもとにある弘法大師像



金戸墓場の賽の河原地蔵菩薩



公民館の聖徳太子像



かんじゃの木の駒藏地藏



川平製材倉庫横の釈迦牟尼仏



日露戦争従軍戦死者の忠魂碑